

自然の博物館 100年の軌跡

—— 標本陳列所から自然史の足跡をたどる ——

令和3年10月30日|土|—令和4年2月27日|日|



大正時代、秩父鉄道株式会社は
長瀬の地に、ささやかな
「秩父礦物植物標本陳列所」を
開設しました。
それが百年にも及ぶ
博物館活動の始まりでした。

関連 事業

講演会 「日本地質学の曙と秩父」

日本地質学の礎を築いたドイツの地質学者 E.ナウマンが探求した日本列島の生い立ちは、今のように捉えられているのでしょうか。その最前線を紹介します。

- 展示紹介「地質学黎明期の秩父」
当館学芸員
- 講演「ナウマンに導かれて」
地質調査総合センター 高橋雅紀氏

日 時 | 1月29日(土) 13:00~15:30
場 所 | 自然の博物館 講堂
参加費 | 無料
(常設展示を観覧する場合は、別途観覧料が必要)

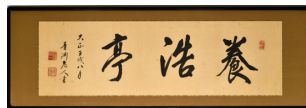
申込方法 | 当館ホームページもしくは往復はがきにてお申込み下さい。
申込期間 | 12月1日(水)~1月11日(火)
(定員を超える場合は抽選)

地質談義 「伝統の宿で日本列島の成り立ちを語る」

陳列所は博物館前の宿「養浩亭」の一角にあり、東京大学教授 神保小虎が宿泊する度に、地元有志が地質学を学びに来ていました。この伝統の宿で、高橋雅紀氏を講師に迎え、日本列島の成り立ちについて探求します。

主 催 | 養浩亭(共催 埼玉県立自然の博物館)
日 時 | 1月29日(土) 17:00~19:00
場 所 | 養浩亭(夕食込 有料)
講 師 | 地質調査総合センター 高橋雅紀氏
問合せ | 養浩亭 ☎0494-66-3131

特別展示
1/29~2/27



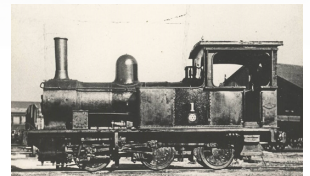
「養浩亭」の命名者、渋沢栄一揮毫の書
(渋沢栄一記念館蔵)

SLミュージアムトレイン



当館学芸員が、SLパレオエクスプレス熊谷駅—長瀬駅間の車窓の解説を行います。地形・地質と深く関わる鉄道延伸の歴史について紹介します。

主 催 | 秩父鉄道株式会社(共催 埼玉県立自然の博物館)
参加費 | 無料(別途乗車券とSL指定席券が必要)
日 時 | 11月20日(土) 熊谷駅10:10-長瀬駅11:37
問合せ | 秩父鉄道株式会社 ☎048-523-3313



上武鉄道第一号機関車(提供:埼玉県立熊谷図書館)

埼玉県立 自然の博物館

開館時間 | 9:00~16:30(入館は16:00まで)
休館日 | 月曜日・年末年始(12/29~1/3)・資料整理のための休館(1/17~1/28)
観覧料 | 一般 200円 大学生・高校生 100円
※中学生以下・障害者手帳等をお持ちの方とその付添者1名は無料
共 催 | 秩父まるとジオパーク推進協議会/秩父鉄道株式会社

*ご来館の際は、マスクの着用にご協力ください。*混雑時に入館制限を行う場合があります。
*新型コロナウイルスの状況により、会期の変更等がある場合があります。
最新情報を博物館のホームページ(<https://shizen.spec.ed.jp/>)でご確認ください。



アクセス

- 自動車をご利用の場合
関越自動車道 花園ICより、国道140号を秩父方面に20km進み、「上長瀬」の信号を左折して300m
- 電車をご利用の場合
秩父鉄道「上長瀬駅」下車徒歩5分、または「長瀬駅」下車徒歩15分



〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1
☎0494-66-0404

●最新の情報、詳細はホームページで
埼玉県立自然の博物館 検索

ここにある理由があります

100年前、秩父鉄道株式会社は、長瀬の地にささやかな「秩父鑛物植物標本陳列所」を開設します。秩父地域は、地質学黎明期から研究が盛んな地であり、大正時代には全国から研究者や学生が地質巡検に訪れていました。

陳列所には、その参考になる化石や鉱物などを展示していました。戦後、陳列所は全国に先駆けた自然史系総合博物館「秩父自然科学博物館」として再興されます。当館はこの活動を受け継ぎ、昭和56年に全国初の県立自然史系総合博物館としてオープンし、以来、埼玉県の自然分野の標本や情報を集約・発信する役割を果たしています。



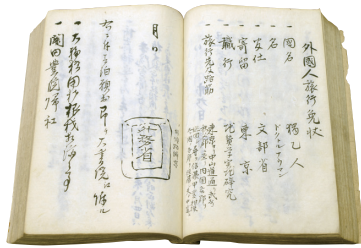
明治時代
前半

秩父地域は「日本地質学発祥の地」

秩父地域は、日本列島の地質構造を明らかにする上で重要な場所であり、先駆的な研究が行われました。「日本地質学の生みの親」といわれるドイツ人地質学者、E. ナウマンも秩父を3度にわたって訪れています。ナウマンは後に贛川(現・秩父市荒川贛川)の景色が「セカイイチミハシガイイ」と讃えています。



▲E.ナウマン



▲三峯神社日誌 (三峰山博物館蔵)
明治11年7月29日、ナウマンが三峯神社の大書院に宿泊した記録。

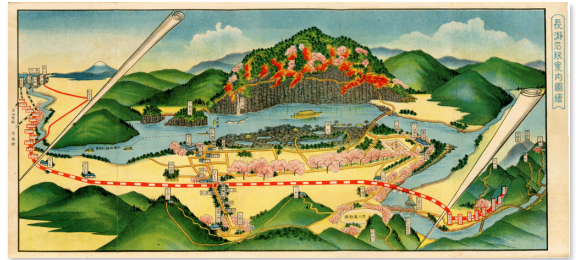
大正時代
末、
昭和初期

「長瀬遊園地」の一面に標本陳列所を開設

大正10年、神保教授の薫陶を受けた秩父鉄道株式会社総務課長の松崎銀平の尽力で、同社は「秩父鑛物植物標本陳列所」を開設します。標本の収集は、著名な鉱物蒐集家長島乙吉が行い、神保教授らが監修しました。



◀絵葉書
「秩父鑛物植物標本陳列所」
(提供：秩父鉄道株式会社)
展示された標本のほとんどは
当館へ受け継がれている。



▲秩父ながとる遊園地地図 (個人蔵)

明治時代
後半、
大正時代

秩父は「帝国大学の地質学の標本室」に

先駆的な研究を学ぶ場所として、秩父地域へ全国各地から多くの人々が訪れるようになりました。中でも帝国大学の神保小虎教授が頻繁に訪れ、秩父地域は「帝国大学の地質学の標本室」といわれました。神保は地元有志にも地質学を啓蒙しました。



▲神保小虎



▲神保が贈ったビールジョッキ (個人蔵)
神保が親交を深めた宮前治三郎に贈ったもの。宮前らは神保が秩父へ来る度に地質学の教を乞い、化石研究会を発足させた。

戦 後

全国に先駆けて自然史系総合博物館が開設

東京文理科大学の藤本治義教授は、秩父地域の学術・教育上の重要性を深く認識しており、「奥秩父総合学術調査」とその成果を基にした博物館の設立の必要性を唱えます。これに秩父鉄道株式会社が応え、昭和24年、「秩父自然科学博物館」を開設します。



▲藤本治義



▲秩父自然科学博物館

昭和
50年代

全国初の県立自然史系総合博物館が開設

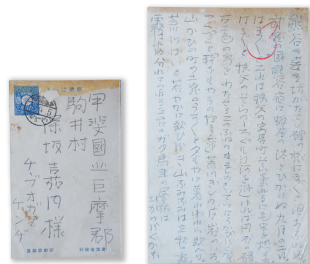
この頃、自然保護の気運が高まり、埼玉県でも自然史系博物館の建設を求める声が上がりました。そして、昭和56年、秩父自然科学博物館の標本を受け継ぎ、「埼玉県立自然史博物館」が開館します。平成18年「埼玉県立自然の博物館」と名称を変え、今に至ります。

宮沢賢治も地質学を学びに秩父へ

宮沢賢治が学生時代を過ごした盛岡高等農林学校は、毎年秩父地域へ地質巡検に訪れていました。賢治も大正5年、2年生の時に秩父を訪れています。



▲アザリアの会のメンバー
宮沢賢治(右上)、
保阪嘉内(左上)



▲賢治が保阪嘉内に宛てた葉書
小鹿野局から9月5日に投函されたもの。9首の短歌が書かれている。7日には秩父局から投函されている。

(提供：ともに宮沢賢治・保阪嘉内アザリア記念会)

平 成

開館当所の館内▶

▼博物館正面

建築設計は、日本のモダニズム建築の巨匠、前川國男が手がけた。



令 和